

佐賀県「食」と「農」の振興計画2015 推進のための営農類型別の農業経営モデル (Vol. 1)

平成28年1月
佐賀県生産振興部

1

目次

- 営農類型別の農業経営モデルについて 3
- 各農業経営モデルの関係 4
- 農業経営モデルの前提条件 5
- 農業経営モデル例 8

<標準モデル(27例)と発展モデル(24例)>

(営農類型別) 水田作(野菜との複合含む):標準(8例)、発展(7例)
野菜作:標準(4例)、発展(4例)
果樹作:標準(4例)、発展(4例)
畑作:標準(2例)、発展(1例)
花き作:標準(4例)、発展(3例)
肉用牛経営:標準(3例)、発展(3例)
酪農経営:標準(1例)、発展(1例)
養豚経営:標準(1例)、発展(1例)

(佐賀さいこうモデル(5例)) 37

2

「営農類型別の農業経営モデル」策定に当たって

＜基本的な考え方＞

○次期計画の実現に向けて、農業指導者等が、経営改善に取り組む農家や新規就農希望者に対し、具体的なイメージを持って指導等が行えるよう、「営農類型別の農業経営モデル」を示す。

○その内容としては、まずは、経営改善に取り組む農家や新規就農希望者が、地域の担い手として、農業で自立していけるような水準の標準的な経営モデル(認定農業者レベル)を提示する。

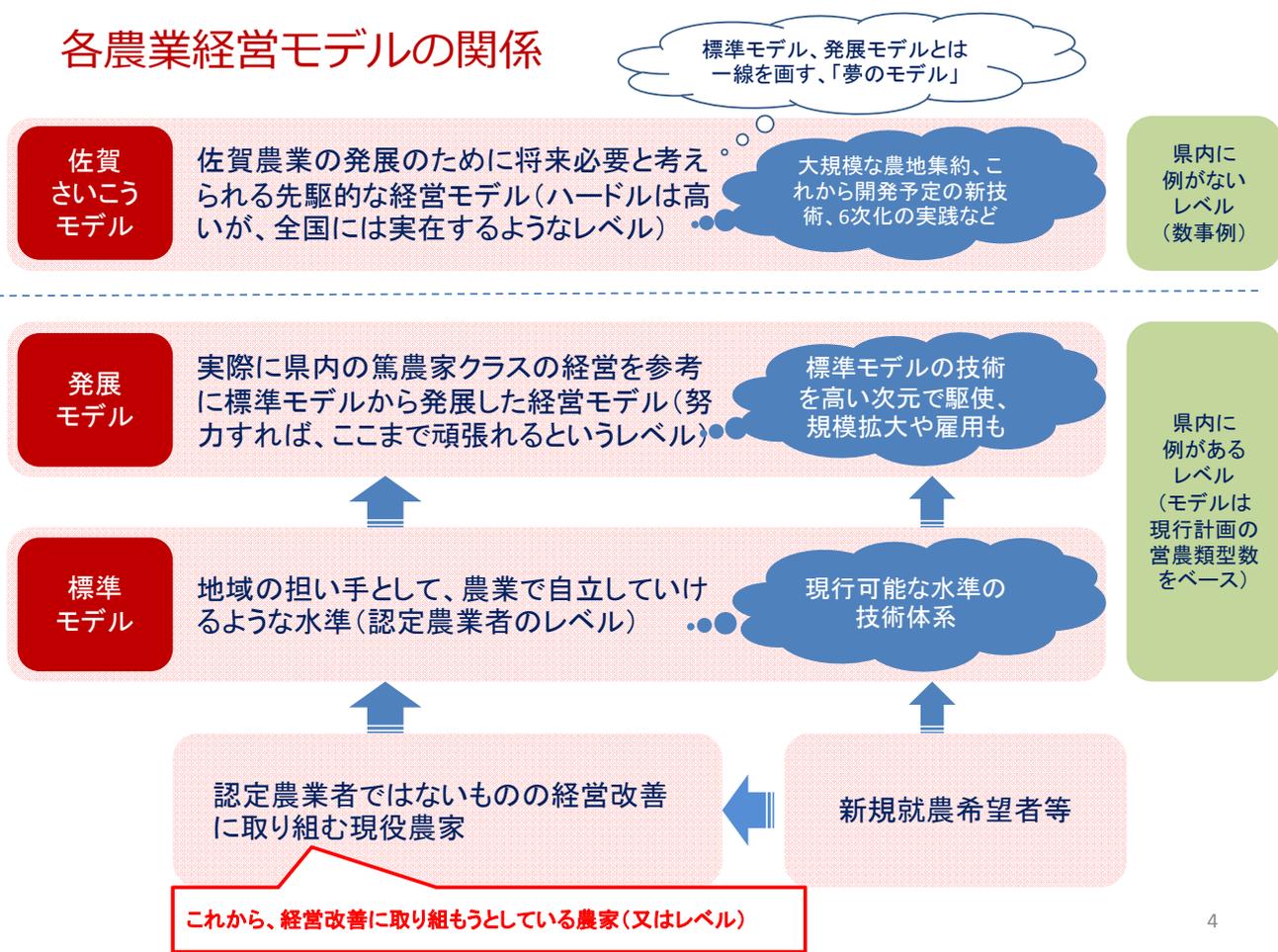
○また、努力すれば、ここまで頑張れるということを示すため、県内の篤農家クラスの経営を参考に標準モデルからの発展的な経営モデルを併せて提示する。

○さらに、現在、県内にはないものの、佐賀農業発展のために将来必要と考えられる先駆的な経営モデル(佐賀さいこうモデル)も数例提示する。

○この経営モデルは、状況の変化に応じて、随時、更新をしていくものとする。

3

各農業経営モデルの関係



4

農業経営モデルの前提条件

項目	前提条件
①目標年次	<p><標準モデル> 取組開始4、5年後</p> <p><発展モデル> 標準モデルから4、5年後</p>
②所得目標	<p><標準モデル>※ 主たる従事者1人当たり400万円程度。副の従事者1人当たり200万円程度。(1経営体当たり500～700万円)</p> <p><発展モデル>※ 主たる従事者(経営者)1人当たり600～700万円程度。 副の従事者1人当たり250万円程度。(1経営体当たり1,200万円程度)</p> <p><佐賀さいこうモデル>※ 主たる経営者2,000万円(法人経営)以上。</p> <p>※集落営農法人の場合10a当たりの所得の目安を提示</p>
③労働時間	<p><共通> 年間1人当たり2,000時間以内</p>

5

農業経営モデルの前提条件

項目	前提条件
④経営形態	<p><標準モデル> 家族経営(2名+雇用)、集落営農法人</p> <p><発展モデル> 家族経営(3名+雇用)、法人経営(3名+雇用)、集落営農法人</p> <p><佐賀さいこうモデル> 家族経営(3or5名+雇用)、法人経営(3or4名+雇用)、集落営農法人</p>
⑤単収	<p>過去5ヶ年の平均単収をもとに目標単収を設定。なお、「発展モデル」は、県の共進会や共例会での上位レベル、「佐賀さいこうモデル」は革新技術等を組み合わせた可能性を踏まえたレベルとして設定。</p>
⑥農産物価格水準	<p>九州農政局佐賀支局(旧佐賀地域センター)及びJA(原則直近5年)データ等より算出</p>
⑦転作率	<p>40%</p>
⑧小作料	<p>10a当たり18,000円</p>
⑨雇用労賃	<p>1時間当たり860円</p>

6

農業経営モデルの前提条件

項目	前提条件
⑩技術水準	<p><標準モデル> 現行可能な水準の技術体系とする</p> <p><発展モデル> 現行可能な水準の技術体系とする。</p> <p><佐賀さいこうモデル> 佐賀県「食」と「農」の振興計画2015の重点項目で開発する技術等を反映</p>
⑪米・麦・大豆・飼料作物に係る所得	平成27年7月現在の国の各種支援制度を加えて算定。 ただし、米の直接支払交付金7,500円/10aは30年産米から廃止されるため、算定には含めていない。
⑫6次化の取組	モデルに応じて反映

7

農業経営モデル一覧(標準モデルと発展モデル)①

営農類型	モデルのポイント	標準	発展
水田作	米・麦・大豆とたまねぎを組み合わせた水田活用・複合経営	○	○
	米(・麦)・大豆と複数の露地野菜(たまねぎ、キャベツ)を組み合わせた水田活用・複合経営①	○	○
	米・麦と複数の露地野菜(たまねぎ、レタス)を組み合わせた水田活用・複合経営②	○	○
	アスパラガスを経営の柱とした水田活用・複合経営	○	○
	中山間地域における軽量野菜を経営の柱とした水田活用・複合経営	○	○
	山間の冷涼な気候を活かした野菜生産などに取り組む水田活用・複合経営	○	○
	水田フル活用による米・麦・大豆生産に作業受託を組み合わせた経営	○	
	集落機能を活かした米・麦・大豆等の生産に取り組む集落営農法人経営	○	○
野菜作	革新的技術や雇用などを取り入れたいちご経営	○	○
	革新的技術や雇用などを取り入れた施設きゅうり経営	○	○
	革新的技術や雇用などを取り入れた施設なす経営	○	○
	革新的技術などを取り入れた施設トマト経営	○	○
	周年出荷や雇用などを取り入れたこねぎ経営	○	○
果樹作	適切な品種の組み合わせや根域制限栽培等を取り入れた露地みかん経営	○	○

8

農業経営モデル一覧(標準モデルと発展モデル)

営農類型	モデルのポイント	標準	発展
果樹作	ハウスみかん等面積の拡大や露地みかん(根域制限栽培)を組み合わせたみかん経営	○	○
	ハウス、トンネル、露地栽培の適切な組合せや省力化技術の導入等を取り入れたなし経営	○	○
	なし栽培と施設もも栽培を組み合わせた果樹複合経営	○	○
畑作(茶)	需要に応じた多様な茶葉の生産と6次化による茶業経営	○	○
花き作	統合環境制御技術や雇用などを取り入れたバラ経営	○	○
	需要に即した品種や雇用などを取り入れたキク経営	○	○
	多様な品種の組み合わせなどによるトルコキキョウ経営	○	
畑作(葉たばこ)	選別作業の省力化や合理的な輪作体系を取り入れた葉たばこ経営	○	
肉用牛経営	繁殖成績の向上と自給飼料の確保などに取り組む肉用牛繁殖経営	○	○
	肉質・枝肉重量の向上と事故率の低減などに取り組む肉用牛肥育経営	○	○
	繁殖・肥育の一貫化による経営安定化やキャトルステーション利用による省力化に取り組む肉用牛一貫経営	○	○
酪農経営	乳量の向上と自給飼料の確保などに取り組む酪農経営	○	○
養豚経営	防疫対策の徹底と生産性の向上などに取り組む養豚経営	○	○

9

農業経営モデル一覧(佐賀さいこうモデル)

営農類型	モデルのポイント
野菜作	統合環境制御技術と密植高設栽培を組み合わせた生産性の高いいちご経営
果樹作	高品質みかん周年供給体制の導入による収益性の高いみかん経営
肉用牛経営	繁殖・肥育の一貫化による経営安定化やキャトルステーション利用による省力化に取り組む大規模な肉用牛一貫経営
水田作	米・麦・大豆と露地野菜を組み合わせた生産性の高い大規模水田農業経営
水田作	共乾施設等を核とした土地利用型作物の効率的生産と収益向上のための園芸生産に取り組む広域集落営農法人経営

10

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 水田作(水稲+麦+大豆+たまねぎ)

モデルのポイント 米・麦・大豆とたまねぎを組み合わせた水田活用・複合経営

標準モデル	発展モデル
<p>【経営形態】 家族経営(2名)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地 3.5ha 水稲うるち 2.1ha 大麦 1.5ha 大豆 1.3ha たまねぎ 2.0ha</p> <p>【単収】 水稲うるち 510kg/10a 大麦 350kg/10a 大豆 250kg/10a たまねぎ 5,000kg/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 12,202千円 経営費 8,485千円 農業所得 3,717千円 (交付金を含む農業所得 5,533千円) 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 1,500時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・農地の面的集積による生産の効率化 ・農業機械の共同利用による米麦、大豆の省力・低コスト生産 ・作物の作付ローテーションによる生産安定 ・たまねぎの機械化一貫体系による省力化と規模拡大 ・品種・作型の組合せによる労力分散</p>	<p>【経営形態】 法人経営(3名、臨時雇用 1,186時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地 7ha(+期間借地 6ha) 水稲うるち(早期) 2.0ha 大豆 2.1ha 水稲うるち 2.0ha 大麦 3.0ha たまねぎ 10.0ha</p> <p>【単収】 水稲うるち(早期) 420kg/10a 大豆 300kg/10a 水稲うるち 520kg/10a 大麦 370kg/10a たまねぎ 5,000kg/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 52,237千円 経営費 43,124千円 うち雇用労賃 2,150千円 農業所得 9,113千円 (交付金を含む農業所得 12,661千円) 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・農地の面的集積による生産の効率化 ・農業機械の共同利用による米麦、大豆の省力・低コスト生産 ・作物の作付ローテーションによる生産安定 ・たまねぎのコンテナ貯蔵、機械化一貫体系による省力化と規模拡大 ・品種・作型の組合せによる労力分散</p>

11

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 水田作(水稲+麦+大豆+露地野菜)

モデルのポイント 米(・麦)・大豆と複数の露地野菜を組み合わせた水田活用・複合経営①

標準モデル	発展モデル
<p>【経営形態】 家族経営(2名)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地 2.5ha 水稲うるち 1.5ha キャベツ 0.5ha 大豆 0.8ha たまねぎ 2.0ha</p> <p>【単収】 水稲うるち 510kg/10a キャベツ 5,000kg/10a 大豆 300kg/10a たまねぎ 5,000kg/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 13,340千円 経営費 8,639千円 農業所得 4,701千円 (交付金を含む農業所得 5,394千円) 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・農地の面的集積による生産の効率化 ・農業機械の共同利用による米麦、大豆の省力・低コスト生産 ・作物の作付ローテーションによる生産安定 ・露地野菜の機械化による省力化と規模拡大 ・品種・作型の組合せによる労力分散 ・契約栽培による経営の安定</p>	<p>【経営形態】 法人経営(3名、臨時雇用 2,986時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地 7ha(+期間借地 6ha) 水稲うるち(早期) 2.0ha 大麦 3.0ha 水稲うるち 2.0ha キャベツ 2.0ha 大豆 2.1ha たまねぎ 8.0ha</p> <p>【単収】 水稲うるち(早期) 420kg/10a 大麦 370kg/10a 水稲うるち 520kg/10a キャベツ 5,000kg/10a 大豆 300kg/10a たまねぎ 5,000kg/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 51,537千円 経営費 40,874千円 うち雇用労賃 2,580千円 農業所得 10,664千円 (交付金を含む農業所得 14,212千円) 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・農地の面的集積による生産の効率化 ・農業機械の共同利用による米麦、大豆の省力・低コスト生産 ・作物の作付ローテーションによる生産安定 ・たまねぎのコンテナ貯蔵、機械化一貫体系による省力化と規模拡大 ・品種・作型の組合せによる労力分散 ・契約栽培による経営の安定</p>

12

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型	水田作(水稲+麦+れんこん+たまねぎ)
モデルのポイント	米・麦と複数の露地野菜を組み合わせた水田活用・複合経営②
標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 1, 166時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地450a(自作地300a、借地150a) 水稲うるち 289a 大麦 150a れんこん 150a たまねぎ 150a(苗床11a) 【単収】 水稲うるち 510kg/10a 大麦 350kg/10a れんこん 1, 500kg/10a たまねぎ 5, 000kg/10a 【収支等】 粗収益 19, 306千円 経営費 12, 295千円 うち雇用労賃 1, 023千円 農業所得 7, 012千円 (交付金を含む農業所得 7, 775千円) 主たる従事者の所得 5, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間	【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 4, 400時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地800a(自作地400a、借地400a) 水稲うるち 350a 大麦 150a 飼料作物 80a れんこん 350a たまねぎ 300a(苗床20a) 【単収】 水稲うるち 520kg/10a 大麦 350kg/10a 飼料作物 5, 000kg/10a れんこん 1, 800kg/10a たまねぎ 5, 000kg/10a 【収支等】 粗収益 43, 282千円 経営費 28, 086千円 うち雇用労賃 3, 784千円 農業所得 15, 196千円 (交付金を含む農業所得 16, 239千円) 主たる従事者の所得 10, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間
【経営技術のポイント】 ・作物の作付ローテーションによる生産安定 ・露地野菜の機械化による省力化 ・品種・作型の分散による労力調整 ・農業機械の共同利用による米麦の省力・低コスト化	【経営技術のポイント】 ・農地の面的集積 ・たまねぎの大型機械導入による省力化と規模拡大 ・契約栽培による経営の安定 ・農業機械の共同利用による米麦の省力・低コスト化

13

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型	水田作(アスパラガス+水稲+麦)
モデルのポイント	アスパラガスを経営の柱とした水田活用・複合経営
標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名) 【経営規模・作付体系】 経営耕地300a アスパラガス 35a 水稲うるち 130a 水稲もち 50a 小麦 70a 大麦 170a 【単収】 アスパラガス 2, 500kg/10a 水稲うるち 510kg/10a 水稲もち 540kg/10a 小麦 400kg/10a 大麦 350kg/10a 【収支等】 粗収益 11, 847千円 経営費 5, 916千円 うち雇用労賃 0円 農業所得 5, 931千円 (交付金を含む農業所得 7, 196千円) 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間	【経営形態】 家族経営(3名) 【経営規模・作付体系】 経営耕地300a アスパラガス 50a 水稲うるち 130a 水稲もち 50a 小麦 70a 大麦 170a 【単収】 アスパラガス 4, 500kg/10a 水稲うるち 510kg/10a 水稲もち 540kg/10a 小麦 400kg/10a 大麦 350kg/10a 【収支等】 粗収益 26, 614千円 経営費 11, 848千円 うち雇用労賃 0円 農業所得 14, 766千円 (交付金を含む農業所得 16, 031千円) 主たる従事者の所得 9, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間
【経営技術のポイント】 ・完熟堆肥投入による土づくりの徹底 ・夏場の下温対策による夏芽の収量・品質向上 ・農業機械の共同利用による米麦の省力・低コスト化	【経営技術のポイント】 ・4. 5トン/10aどりのための栽培技術の徹底 ・連作障害回避のための新技術の導入 ・農業機械の共同利用による米麦の省力・低コスト化

14

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 水田作(ほうれんそう+水稻)

モデルのポイント 中山間地域における軽量野菜を経営の柱とした水田活用・複合経営

標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 1, 378時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地200a ほうれんそう 50a 水稻うるち 125a 【単収】 ほうれんそう 4, 500kg/10a 水稻うるち 450/10a 【収支等】 粗収益 13, 910千円 経営費 7, 738千円 うち雇用労賃 1, 216千円 農業所得 6, 172千円 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間 【経営技術のポイント】 ・夏期の土壌水分の適正化と寒冷紗被覆による下温対策 ・真空播種機、自動包装機の導入等による省力化 ・農業機械の共同利用による米の省力・低コスト生産	【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 4, 620時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地300a ほうれんそう 100a 水稻うるち 200a 【単収】 ほうれんそう 5, 000kg/10a 水稻うるち 450kg/10a 【収支等】 粗収益 30, 055千円 経営費 17, 969千円 うち雇用労賃 4, 024千円 農業所得 12, 086千円 主たる従事者の所得 7, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間 【経営技術のポイント】 ・雇用を導入した経営規模の拡大 ・共同作業所による調整作業の省力化 ・農業機械の共同利用による米の省力・低コスト生産

15

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 水田作(パセリ+レタス+水稻)

モデルのポイント 山間の冷涼な気候を活かした野菜生産などに取り組む水田活用・複合経営

標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 2, 351時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地200a パセリ 30a レタス 100a 水稻うるち 130a 【単収】 パセリ 2, 100kg/10a レタス 2, 500kg/10a 水稻うるち 450kg/10a 【収支等】 粗収益 15, 855千円 経営費 10, 897千円 うち雇用労賃 2, 055千円 農業所得 4, 958千円 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間 【経営技術のポイント】 ・高温期の寒冷紗被覆と冬期の保温対策による高品質安定生産 ・レタスの作型組合せによる労力分散と生産量の確保 ・農業機械の共同利用による米の省力・低コスト生産	【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 10, 905時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地300a パセリ 50a レタス 600a(延べ) 水稻うるち 150a 【単収】 パセリ 2, 500kg/10a レタス 2, 500kg/10a 水稻うるち 450kg/10a 【収支等】 粗収益 48, 541千円 経営費 36, 614千円 うち雇用労賃 9, 417千円 農業所得 11, 927千円 主たる従事者の所得 7, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間 【経営技術のポイント】 ・雇用を導入した経営規模の拡大 ・レタスの作型組合せによる労力分散と生産量の確保 ・農業機械の共同利用による米の省力・低コスト生産

16

農業経営モデル（標準モデル）

営農類型

水田作(水稲+麦+大豆+作業受託)

モデルのポイント

水田フル活用による米・麦・大豆生産に作業受託を組み合わせた経営

標準モデル

【経営形態】

家族経営(2名)

【経営規模・作付体系】

経営耕地 6ha

水稲うるち	2.6ha	大豆	2.4ha
水稲もち	1.0ha	大麦	4.2ha
作業受託(防除・収穫)	7.0ha	小麦	1.8ha

【単収】

水稲うるち	510kg/10a	大豆	250kg/10a		
水稲もち	540kg/10a	大麦	350kg/10a	小麦	400kg/10a

【収支等】

粗収益	6,505千円
経営費	6,133千円
農業所得	372千円
(交付金を含む農業所得)	5,545千円)
主たる従事者の所得	4,000千円
主たる従事者の労働時間	1,000時間

【経営技術のポイント】

- ・農地の面的集積による生産の効率化
- ・大型機械化一貫体系による省力・低コスト生産
- ・品種の組合せによる作期幅拡大と特色ある米づくり
- ・大豆不耕起播種やアップカッターロータリー耕起同時播種など省力技術導入による安定生産

17

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型

水田作(水稲+麦+大豆(+露地野菜))

モデルのポイント

集落機能を活かした米・麦・大豆等の生産に取り組む集落営農法人経営

標準モデル

【経営形態】

集落営農法人による経営

【経営規模・作付体系】

経営耕地 25.0ha

水稲うるち	10.5ha	小麦	7.5ha
水稲もち	4.5ha	大麦	17.5ha
大豆	10.0ha		

【単収】

水稲うるち	510kg/10a	小麦	400kg/10a
水稲もち	540kg/10a	大麦	350kg/10a
大豆	250kg/10a		

【収支等】

粗収益	24,917千円
経営費	32,633千円
うち構成員への労務費	8,100千円
交付金を含む農業所得	26,436千円
10a当たり所得の目安	106千円/10a

【経営技術のポイント】

- ・作物・品種毎の団地化による作業の効率化
- ・機械・施設の効率的利用による生産コストの低減
- ・余剰労力を活用した個別部門での園芸作物の導入

発展モデル

【経営形態】

集落営農法人による経営

【経営規模・作付体系】

経営耕地 30.0ha

水稲うるち	12.6ha	小麦	7.0ha
水稲もち	5.4ha	大麦	14.0ha
飼料用米	3.5ha	大豆	8.0ha
キャベツ	3.0ha	玉葱	6.0ha
		苗床	0.5ha

【単収】

水稲うるち	520kg/10a	小麦	400kg/10a
水稲もち	540kg/10a	大麦	350kg/10a
飼料用米	540kg/10a	大豆	250kg/10a
キャベツ	4t/10a	玉葱	5t/10a

【収支等】

粗収益	66,105千円
経営費	61,430千円
うち構成員への労務費	12,531千円
交付金を含む農業所得	43,796千円
10a当たり所得の目安	146千円/10a

【経営技術のポイント】

- ・集落内での農地の効率的利用
- ・作物・品種毎の団地化による作業の効率化
- ・機械・施設の効率的利用による生産コストの低減
- ・法人での園芸作物導入による組合員の所得向上

18

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 野菜作(いちご)

モデルのポイント 革新的技術や雇用などを取り入れたいちご経営

標準モデル	発展モデル
<p>【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 2, 357時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地30a 施設いちご 30a</p> <p>【単収】 いちご 4, 500kg/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 15, 674千円 経営費 10, 334千円 うち雇用労賃 2, 027千円 農業所得 5, 340千円 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・肥培管理など基本技術の徹底 ・高設育苗による健苗の育成 ・光合成促進装置の効果的な使用による収量の向上</p>	<p>【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 12, 189時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地80a 施設いちご 80a</p> <p>【単収】 いちご 6, 000kg/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 55, 728千円 経営費 43, 919千円 うち雇用労賃 10, 482千円 農業所得 11, 809千円 主たる従事者の所得 6, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・雇用を導入した経営規模の拡大 ・パッケージセンターを活用した調整作業の省力化 ・高設栽培の導入による軽作業化 ・統合環境制御技術の導入による収量の飛躍的な向上</p>

19

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 野菜作(施設きゅうり)

モデルのポイント 革新的技術や雇用などを取り入れた施設きゅうり経営

標準モデル	発展モデル
<p>【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 1, 938時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地25a 施設きゅうり 25a</p> <p>【単収】 施設きゅうり 24t/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 16, 080千円 経営費 10, 510千円 うち雇用労賃 1, 666千円 農業所得 5, 570千円 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・肥培管理など基本技術の徹底 ・作型の組合せによる出荷期間の延長 ・多層被覆やヒートポンプの導入など脱石油・省石油対策の実施 ・光合成促進装置の効果的な使用による収量の向上</p>	<p>【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 7, 365時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地50a 施設きゅうり 50a</p> <p>【単収】 施設きゅうり 30t/10a</p> <p>【収支等】 粗収益 40, 200千円 経営費 28, 444千円 うち雇用労賃 6, 334千円 農業所得 11, 756千円 主たる従事者の所得 6, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間</p> <p>【経営技術のポイント】 ・雇用を導入した経営規模の拡大 ・統合環境制御技術の導入による収量の飛躍的な向上</p>

20

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 野菜作(施設なす)

モデルのポイント 革新的技術や雇用などを取り入れた施設なす経営

標準モデル	発展モデル																								
<p>【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 670時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地25a 施設なす 25a</p> <p>【単収】 施設なす 17t/10a</p> <p>【収支等】</p> <table border="0"> <tr> <td>粗収益</td> <td>13,983千円</td> </tr> <tr> <td>経営費</td> <td>8,537千円</td> </tr> <tr> <td>うち雇用労賃</td> <td>576千円</td> </tr> <tr> <td>農業所得</td> <td>5,446千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の所得</td> <td>4,000千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の労働時間</td> <td>2,000時間</td> </tr> </table>	粗収益	13,983千円	経営費	8,537千円	うち雇用労賃	576千円	農業所得	5,446千円	主たる従事者の所得	4,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間	<p>【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 3,072時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地45a 施設なす 45a</p> <p>【単収】 施設なす 21t/10a</p> <p>【収支等】</p> <table border="0"> <tr> <td>粗収益</td> <td>31,091千円</td> </tr> <tr> <td>経営費</td> <td>19,742千円</td> </tr> <tr> <td>うち雇用労賃</td> <td>2,642千円</td> </tr> <tr> <td>農業所得</td> <td>11,349千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の所得</td> <td>6,000千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の労働時間</td> <td>2,000時間</td> </tr> </table>	粗収益	31,091千円	経営費	19,742千円	うち雇用労賃	2,642千円	農業所得	11,349千円	主たる従事者の所得	6,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間
粗収益	13,983千円																								
経営費	8,537千円																								
うち雇用労賃	576千円																								
農業所得	5,446千円																								
主たる従事者の所得	4,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								
粗収益	31,091千円																								
経営費	19,742千円																								
うち雇用労賃	2,642千円																								
農業所得	11,349千円																								
主たる従事者の所得	6,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								
<p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥培管理など基本技術の徹底 ・多層被覆や循環扇の導入など省石油対策の実施 ・光合成促進装置の効果的な使用による収量の向上 	<p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用を導入した経営規模の拡大 ・単為結果品種導入によるホルモン処理作業の軽減 ・統合環境制御技術の導入による収量の飛躍的な向上 																								

21

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 野菜作(施設トマト)

モデルのポイント 革新的技術などを取り入れた施設トマト経営

標準モデル	発展モデル																								
<p>【経営形態】 家族経営(2名)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地25a 施設トマト 25a</p> <p>【単収】 施設トマト 14t/10a</p> <p>【収支等】</p> <table border="0"> <tr> <td>粗収益</td> <td>11,935千円</td> </tr> <tr> <td>経営費</td> <td>6,684千円</td> </tr> <tr> <td>うち雇用労賃</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>農業所得</td> <td>5,251千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の所得</td> <td>4,000千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の労働時間</td> <td>2,000時間</td> </tr> </table>	粗収益	11,935千円	経営費	6,684千円	うち雇用労賃	0円	農業所得	5,251千円	主たる従事者の所得	4,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間	<p>【経営形態】 家族経営(3名)</p> <p>【経営規模・作付体系】 経営耕地50a 施設トマト 50a</p> <p>【単収】 施設トマト 20t/10a</p> <p>【収支等】</p> <table border="0"> <tr> <td>粗収益</td> <td>27,000千円</td> </tr> <tr> <td>経営費</td> <td>15,120千円</td> </tr> <tr> <td>うち雇用労賃</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>農業所得</td> <td>11,880千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の所得</td> <td>6,000千円</td> </tr> <tr> <td>主たる従事者の労働時間</td> <td>2,000時間</td> </tr> </table>	粗収益	27,000千円	経営費	15,120千円	うち雇用労賃	0円	農業所得	11,880千円	主たる従事者の所得	6,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間
粗収益	11,935千円																								
経営費	6,684千円																								
うち雇用労賃	0円																								
農業所得	5,251千円																								
主たる従事者の所得	4,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								
粗収益	27,000千円																								
経営費	15,120千円																								
うち雇用労賃	0円																								
農業所得	11,880千円																								
主たる従事者の所得	6,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								
<p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥培管理など基本技術の徹底 ・多層被覆や循環扇の導入など省石油対策の実施 ・光合成促進装置の効果的な使用による収量の向上 	<p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合環境制御技術の導入による収量の飛躍的な向上 																								

22

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 野菜作(こねぎ)

モデルのポイント 周年出荷や雇用などを取り入れたこねぎ経営

標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 8,800時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地80a こねぎ 80a 【単収】 こねぎ 3,800kg/10a 【収支等】 粗収益 23,986千円 経営費 17,749千円 うち雇用労賃 7,568千円 農業所得 6,236千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 42,000時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地300a こねぎ 300a 【単収】 こねぎ 5,000kg/10a 【収支等】 粗収益 118,350千円 経営費 104,148千円 うち雇用労賃 36,120千円 農業所得 14,202千円 主たる従事者の所得 9,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間
【経営技術のポイント】 ・肥培管理など基本技術の徹底 ・播種期の組合せによる周年出荷体制	【経営技術のポイント】 ・雇用を導入した経営規模の拡大 ・共同作業所による調整作業の省力化

23

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 果樹作(みかん)

モデルのポイント 適切な品種の組み合わせや根域制限栽培等を取り入れた露地みかん経営

標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 2,350時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 300a みかん 極早生 マルチ栽培 10a 根域制限栽培 20a 早生 マルチ栽培 60a 根域制限栽培 60a 普通 マルチ栽培 100a 不知火 50a (※いずれも露地) 【単収】 みかん 極早生 マルチ栽培 2.2t/10a 根域制限栽培 3t/10a 早生 マルチ栽培 2.5t/10a 根域制限栽培 3.5t/10a 普通 マルチ栽培 2.4t/10a 不知火 2.5t/10a 【収支等】 粗収益 20,419千円 経営費 14,042千円 うち雇用労賃 2,021千円 農業所得 6,377千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 2,382時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 420a みかん 極早生 マルチ栽培 10a 根域制限栽培 50a 早生 マルチ栽培 20a 根域制限栽培 100a 普通 マルチ栽培 40a 隔年交互結実栽培 100a 不知火 100a (※いずれも露地) 【単収】 みかん 極早生 マルチ栽培 2.2t/10a 根域制限栽培 3t/10a 早生 マルチ栽培 2.5t/10a 根域制限栽培 3.5t/10a 普通 マルチ栽培 2.4t/10a 隔年交互結実 3t/10a 不知火 2.5t/10a 【収支等】 粗収益 32,187千円 経営費 20,911千円 うち雇用労賃 2,049千円 農業所得 11,276千円 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間
【経営技術のポイント】 ・労力分散のための極早生、早生、普通、中晩柑を組み合わせた経営 ・マルチ栽培、根域制限栽培の導入による高品質果実生産	【経営技術のポイント】 ・優良園地の借受による経営規模拡大 ・高品質果実の生産が可能となる根域制限栽培割合の増加や隔年交互結実栽培の導入

24

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型		果樹作(ハウスみかん)	
モデルのポイント		ハウスみかん等面積の拡大や露地みかん(根域制限栽培)を組み合わせたみかん経営	
標準モデル		発展モデル	
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 142時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 80a ハウスみかん 60a ハウス不知火 20a 【単収】 ハウスみかん 5.5t/10a ハウス不知火 4.5t/10a 【収支等】 粗収益 34,110千円 経営費 26,870千円 うち雇用労賃 122千円 農業所得 7,240千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間		【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 499時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 160a ハウスみかん 80a ハウス不知火 30a 露地みかん(根域制限栽培) 極早生 20a 早生 30a 【単収】 ハウスみかん 6t/10a ハウス不知火 4.5t/10a 露地みかん(根域制限栽培) 極早生 3t/10a 早生 3.5t/10a 【収支等】 粗収益 53,457千円 経営費 41,574千円 うち雇用労賃 429千円 農業所得 11,883千円 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	
【経営技術のポイント】 ・基本技術管理の徹底と土づくりによる収量の確保 ・需要期に応じた加温と温度管理の徹底 ・省エネルギー対策による生産コスト削減		【経営技術のポイント】 ・雇用労力の確保等による ①施設栽培面積の拡大 ②露地みかん(根域制限栽培)の導入	

25

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型		果樹作(なし)	
モデルのポイント		ハウス、トンネル、露地栽培の適切な組合せや省力化技術の導入等を取り入れたなし経営	
標準モデル		発展モデル	
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 939時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 110a ハウスなし 50a トンネルなし 40a 露地なし 20a 【単収】 ハウスなし 3t/10a トンネルなし 3t/10a 露地なし 2.5t/10a 【収支等】 粗収益 19,240千円 経営費 12,617千円 うち雇用労賃 808千円 農業所得 6,623千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間		【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 2,575時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 200a ハウスなし 50a ハウスなし ジョイント栽培 50a トンネルなし 70a 露地なし 30a 【単収】 ハウスなし 3t/10a ハウスなし ジョイント栽培 3t/10a トンネルなし 3t/10a 露地なし 2.5t/10a 【収支等】 粗収益 36,030千円 経営費 24,547千円 うち雇用労賃 2,215千円 農業所得 11,483千円 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	
【経営技術のポイント】 ・土づくり、樹勢維持等の基本管理技術の徹底 ・計画的な改植による安定生産 ・労力分散のためのハウス、トンネル、露地栽培を組み合わせた経営の実践 ・露地栽培での高品質高単収品種「あきづき」導入		【経営技術のポイント】 ・省力技術(ジョイント栽培)の導入や雇用労力の確保等による経営規模の拡大	

26

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型	果樹作(なし+施設もも)
モデルのポイント	なし栽培と施設もも栽培を組み合わせた果樹複合経営
標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 748時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 110a ハウスなし 40a トンネルなし 40a 露地なし 20a ハウスもも 10a 【単収】 ハウスなし 3t/10a トンネルなし 3t/10a 露地なし 2.5t/10a ハウスもも 2.4t/10a 【収支等】 粗収益 18,250千円 経営費 11,424千円 うち雇用労賃 643千円 農業所得 6,826千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間 【経営技術のポイント】 ・土づくり、樹勢維持等の基本管理技術の徹底 ・計画的な改植更新による安定生産 ・ハウスもも栽培の導入	【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 1,347時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 180a ハウスなし 30a ハウスなし ジョイント栽培 20a トンネルなし 70a 露地なし 30a ハウスもも 30a 【単収】 ハウスなし 3t/10a ハウスなし ジョイント栽培 3t/10a トンネルなし 3t/10a 露地なし 2.5t/10a 施設もも 2.4t/10a 【収支等】 粗収益 28,536千円 経営費 17,327千円 うち雇用労賃 1,158千円 農業所得 11,209千円 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間 【経営技術のポイント】 ・雇用労力の確保等による経営規模拡大 ・ハウスなしにおける省力技術ジョイント栽培の導入

27

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型	畑作(茶)
モデルのポイント	需要に応じた多様な茶葉生産と6次化による茶業経営
標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 1,200時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 400a 茶 400a 【単収】 茶 100kg/10a 【収支等】 粗収益 14,400千円 経営費 8,952千円 うち雇用労賃 1,032千円 農業所得 5,448千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間 【経営技術のポイント】 ・高品質なかぶせ茶の生産割合80% ・適期摘採と高い加工技術の取得 ・生産基盤の整備と機械化による省力化	【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 7,400時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 900a 茶 900a 【単収】 かぶせ茶 100kg/10a 粉末茶原料(一番茶) 100kg/10a 紅茶(二番茶) 100kg/10a 【収支等】 粗収益 46,250千円 経営費 33,739千円 うち雇用労賃 6,364千円 農業所得 12,511千円 主たる従事者の所得 7,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間 【経営技術のポイント】 ・生産基盤整備や省力機械の導入、雇用労力の確保等による大規模経営の確立 ・高品質なかぶせ茶の生産割合94% ・高級粉末茶や紅茶等需要の高い茶葉の生産 ・仕上げ茶の販売(6次化)

28

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型	
花き作(バラ)	
モデルのポイント	
統合環境制御技術や雇用などを取り入れたバラ経営	
標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、常時雇用 3人) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 40a バラ 40a 【単収】 バラ 84,000本/10a 【収支等】 粗収益 33,600千円 経営費 27,772千円 うち雇用労賃 5,535千円 農業所得 5,828千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	【経営形態】 家族経営(3名、常時雇用 10人) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 100a バラ 100a 【単収】 バラ 90,000本/10a 【収支等】 粗収益 90,000千円 経営費 77,431千円 うち雇用労賃 17,277千円 農業所得 12,569千円 主たる従事者の所得 7,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間
【経営技術のポイント】 ・統合環境制御温室の導入による施設管理の合理化 ・需要動向に即した品種の導入 ・生産安定・省力化のためのロックウール栽培導入	【経営技術のポイント】 ・雇用労力の確保等による大規模経営 ・育苗ハウスを活用した大苗定植による生産の効率化 ・養液循環システムの導入による肥料コスト削減

29

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型	
花き作(キク)	
モデルのポイント	
需要に即した品種や雇用などを取り入れたキク経営	
標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 4,400時間) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 50a キク 50a 【単収】 キク 90,000本/10a 【収支等】 粗収益 27,000千円 経営費 21,070千円 うち雇用労賃 4,128千円 農業所得 5,930千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	【経営形態】 家族経営(3名、常時雇用 4人) 【経営規模・作付体系】 経営耕地 80a キク 80a 【単収】 キク 90,000本/10a 【収支等】 粗収益 46,800千円 経営費 36,302千円 うち雇用労賃 6,605千円 農業所得 10,498千円 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間
【経営技術のポイント】 ・需要動向に即した品種の導入 ・適正な電照と温度管理、土づくりの徹底 ・直挿しや灌水同時施肥等による省力化	【経営技術のポイント】 ・雇用労力の確保による経営規模拡大 ・耐候性ハウスの導入による周年安定生産 ・周年出荷による市場からの信頼度向上 ・自動選花機等省力機械の整備による低コスト・省力化

30

農業経営モデル（標準モデル）

営農類型	花き作(トルコキキョウ)	
モデルのポイント	多様な品種の組み合わせなどによるトルコキキョウ経営	
標準モデル		
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 3, 515時間)	【経営規模・作付体系】 経営耕地 50a トルコキキョウ 50a	【単収】 25, 500本/10a
【収支等】 粗収益 16, 575千円 経営費 11, 047千円(うち雇用労賃 3, 023千円) 農業所得 5, 529千円 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間		
【経営技術のポイント】 ・需要動向に即した品種の導入 ・適正管理と土づくりの徹底 ・光合成促進装置の効果的な使用による高品質化		
営農類型	畑作(葉たばこ)	
モデルのポイント	選別作業の省力化や合理的な輪作体系を取り入れた葉たばこ経営	
標準モデル		
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 1, 250時間)	【経営規模・作付体系】 経営耕地 350a 葉たばこ 350a	【単収】 250kg/10a
【収支等】 粗収益 17, 868千円 経営費 11, 156千円(うち雇用労賃 1, 075千円) 農業所得 6, 711千円 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間		
【経営技術のポイント】 ・共同乾燥、受委託乾燥による選別作業の省力化 ・耕種的防除、土壌消毒等による病害虫対策の徹底 ・合理的な輪作体系の確立		

31

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型	肉用牛経営(和牛繁殖+飼料作)
モデルのポイント	繁殖成績の向上と自給飼料の確保などに取り組む肉用牛繁殖経営
標準モデル	発展モデル
【経営形態】 家族経営(2名)	【経営形態】 家族経営(3名)
【経営規模・作付体系】 繁殖牛(経産牛)50頭(子牛出荷40頭) 飼料作物 延べ8. 8ha 稲わら収集 11ha	【経営規模・作付体系】 繁殖牛(経産牛)100頭(子牛出荷84頭) 飼料作物 延べ17ha 稲わら収集 20ha
【収支等】 粗収益 20, 530千円 経営費 14, 818千円 うち雇用労賃 0千円 農業所得 5, 712千円 主たる従事者の所得 4, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間	【収支等】 粗収益 42, 709千円 経営費 31, 445千円 うち雇用労賃 0千円 農業所得 11, 264千円 主たる従事者の所得 6, 000千円 主たる従事者の労働時間 2, 000時間
【経営技術のポイント】 ・子牛生産率及び出荷率の向上 ・肥育素牛育成基本プログラムの実践 ・良質粗飼料の低コスト生産 ・フリーバーン等を利用した省力管理	【経営技術のポイント】 ・子牛生産率及び出荷率の向上 ・肥育素牛育成基本プログラムの実践 ・耕畜連携による良質粗飼料の確保 ・フリーバーン等を利用した省力管理 ・超早期母子分離による分娩間隔短縮

32

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 肉用牛経営(和牛肥育)

モデルのポイント 肉質・枝肉重量の向上と事故率の低減などに取り組む肉用牛肥育経営

標準モデル	発展モデル																								
<p>【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 198時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 肥育牛150頭(出荷95頭) 飼料作物 延べ0.13ha 稲わら収集 15ha</p> <p>【収支等】</p> <table border="1"> <tr><td>粗収益</td><td>91,602千円</td></tr> <tr><td>経営費</td><td>85,787千円</td></tr> <tr><td>うち雇用労賃</td><td>197千円</td></tr> <tr><td>農業所得</td><td>5,815千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の所得</td><td>4,000千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の労働時間</td><td>2,000時間</td></tr> </table> <p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料給与基本プログラムの実践 ・耕畜連携による稲わら等の確保 ・管理・観察の徹底による事故率の低減 	粗収益	91,602千円	経営費	85,787千円	うち雇用労賃	197千円	農業所得	5,815千円	主たる従事者の所得	4,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間	<p>【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 1,776時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 肥育牛350頭(出荷222頭) 飼料作物 延べ2.6ha 稲わら収集 35ha</p> <p>【収支等】</p> <table border="1"> <tr><td>粗収益</td><td>213,739千円</td></tr> <tr><td>経営費</td><td>202,572千円</td></tr> <tr><td>うち雇用労賃</td><td>2,862千円</td></tr> <tr><td>農業所得</td><td>11,167千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の所得</td><td>6,000千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の労働時間</td><td>2,000時間</td></tr> </table> <p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料給与基本プログラムの実践 ・耕畜連携による稲わら等の確保 ・管理・観察の徹底による事故率の低減 ・自動給餌機などの導入による省力化 	粗収益	213,739千円	経営費	202,572千円	うち雇用労賃	2,862千円	農業所得	11,167千円	主たる従事者の所得	6,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間
粗収益	91,602千円																								
経営費	85,787千円																								
うち雇用労賃	197千円																								
農業所得	5,815千円																								
主たる従事者の所得	4,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								
粗収益	213,739千円																								
経営費	202,572千円																								
うち雇用労賃	2,862千円																								
農業所得	11,167千円																								
主たる従事者の所得	6,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								

33

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型 肉用牛経営(肉用牛一貫)

モデルのポイント 繁殖・肥育の一貫化による経営安定化やキャトルステーション利用による省力化に取り組む肉用牛一貫経営

標準モデル	発展モデル																								
<p>【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 375時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 肥育牛100頭(出荷65頭) 繁殖牛(経産牛)15頭(子牛生産12頭) 飼料作物 延べ 2.2ha 稲わら収集 10.6ha</p> <p>【収支等】</p> <table border="1"> <tr><td>粗収益</td><td>61,680千円</td></tr> <tr><td>経営費</td><td>55,946千円</td></tr> <tr><td>うち雇用労賃</td><td>0千円</td></tr> <tr><td>農業所得</td><td>5,734千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の所得</td><td>4,000千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の労働時間</td><td>2,000時間</td></tr> </table> <p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫経営による経営安定化 ・飼料給与基本プログラムの実践 ・キャトルステーション利用による省力化 ・耕畜連携による良質粗飼料の確保 ・超早期母子分離による分娩間隔短縮 	粗収益	61,680千円	経営費	55,946千円	うち雇用労賃	0千円	農業所得	5,734千円	主たる従事者の所得	4,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間	<p>【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 595時間)</p> <p>【経営規模・作付体系】 肥育牛170頭(出荷109頭) 繁殖牛(経産牛)65頭(子牛生産54頭) 飼料作物 延べ 12.0ha 稲わら収集 17.0ha</p> <p>【収支等】</p> <table border="1"> <tr><td>粗収益</td><td>102,373千円</td></tr> <tr><td>経営費</td><td>90,663千円</td></tr> <tr><td>うち雇用労賃</td><td>595千円</td></tr> <tr><td>農業所得</td><td>11,710千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の所得</td><td>6,000千円</td></tr> <tr><td>主たる従事者の労働時間</td><td>2,000時間</td></tr> </table> <p>【経営技術のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫経営による経営安定化 ・飼料給与基本プログラムの実践 ・キャトルステーション利用による省力化 ・耕畜連携による良質粗飼料の確保 ・フリーバーン等を利用した省力管理 ・超早期母子分離による分娩間隔短縮 	粗収益	102,373千円	経営費	90,663千円	うち雇用労賃	595千円	農業所得	11,710千円	主たる従事者の所得	6,000千円	主たる従事者の労働時間	2,000時間
粗収益	61,680千円																								
経営費	55,946千円																								
うち雇用労賃	0千円																								
農業所得	5,734千円																								
主たる従事者の所得	4,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								
粗収益	102,373千円																								
経営費	90,663千円																								
うち雇用労賃	595千円																								
農業所得	11,710千円																								
主たる従事者の所得	6,000千円																								
主たる従事者の労働時間	2,000時間																								

34

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型		酪農経営(酪農+飼料作)	
モデルのポイント		乳量の向上と自給飼料の確保などに取り組む酪農経営	
標準モデル		発展モデル	
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 156時間) 【経営規模・作付体系】 経産牛40頭(搾乳牛35頭) 年間搾乳量8,600kg/頭 飼料作物 延べ8ha 耕畜連携による WCS収集面積4ha		【経営形態】 家族経営(3名、臨時雇用 183時間) 【経営規模・作付体系】 経産牛100頭(搾乳牛87頭) 年間搾乳量8,600kg/頭 飼料作物 延べ24ha 耕畜連携による WCS収集面積8ha	
【収支等】 粗収益 31,429千円 経営費 25,596千円 うち雇用労賃 251千円 農業所得 5,833千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間		【収支等】 粗収益 77,578千円 経営費 65,647千円 うち雇用労賃 294千円 農業所得 11,931千円 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	
【経営技術のポイント】 ・良質粗飼料の低コスト生産 ・耕畜連携による稲WCSの生産 ・雌雄判別技術活用による後継牛確保 ・受精卵移植による黒毛和種子牛生産		【経営技術のポイント】 ・良質粗飼料の低コスト生産 ・フリーバーンやミルクキングパーラー方式による搾乳などの省力化 ・耕畜連携による稲WCSの生産 ・雌雄判別技術活用による後継牛確保 ・受精卵移植による黒毛和種子牛生産	

35

農業経営モデル（標準モデルと発展モデル）

営農類型		養豚経営(養豚一貫)	
モデルのポイント		防疫対策の徹底と生産性の向上などに取り組む養豚経営	
標準モデル		発展モデル	
【経営形態】 家族経営(2名、臨時雇用 2,224時間) 【経営規模・作付体系】 母豚130頭(肉豚出荷2,840頭)		【経営形態】 家族経営(3名、常時雇用1名、臨時雇用652時間) 【経営規模・作付体系】 母豚220頭(肉豚出荷4,807頭)	
【収支等】 粗収益 108,591千円 経営費 101,968千円 うち雇用労賃 1,440千円 農業所得 6,623千円 主たる従事者の所得 4,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間		【収支等】 粗収益 183,770千円 経営費 172,561千円 うち雇用労賃 3,432千円 農業所得 11,209千円 主たる従事者の所得 6,000千円 主たる従事者の労働時間 2,000時間	
【経営技術のポイント】 ・優良系統種豚の計画的導入 ・人工授精技術等を利用した子豚生産率の向上 ・防疫対策等の強化による事故率の低減 ・未利用資源等を利用した低コスト生産		【経営技術のポイント】 ・優良系統種豚の計画的導入 ・人工授精技術等を利用した子豚生産率の向上 ・防疫対策等の強化による事故率の低減 ・グループ管理システムの導入による作業の省力化・低コスト生産	

36

農業経営モデル（佐賀さいこうモデル）

営農類型 野菜作(いちご)

モデルのポイント 統合環境制御技術と密植高設栽培を組み合わせた生産性の高いいちご経営

佐賀さいこうモデル

【経営形態】
 家族経営
 (3名、常時雇用7名、臨時雇用26、245時間)
 【経営規模・作付体系】
 経営耕地200a
 いちご 200a
 【単収】
 いちご 10t/10a
 【収支等】
 粗収益 2億円
 経営費 160,240千円
 うち雇用労賃 34,606千円
 農業所得 45,394千円
 主たる従事者の所得 35,000千円
 主たる従事者の労働時間 2,000時間

【経営技術のポイント】
 ・統合環境制御技術の導入による飛躍的な収量向上
 ・密植高設栽培システムの導入による軽作業化と収量向上
 ・春先の下温対策や四季なりいちごの導入などによる収穫期間の延長
 ・育苗センターやパッケージセンター活用による作業の分業化
 ・雇用の積極的導入による規模拡大



統合環境制御と密植高設栽培を組み合わせたいちご栽培



いちごパッケージセンター

農業経営モデル（佐賀さいこうモデル）

営農類型 果樹作(ハウスみかん+露地みかん)

モデルのポイント 高品質みかん周年供給体制の導入による収益性の高いみかん経営

佐賀さいこうモデル

【経営形態】
 家族経営(5名、臨時雇用 8、820時間)
 【経営規模・作付体系】
 経営耕地 500a
 ハウスみかん 200a
 露地みかん
 早生 根域制限栽培 100a
 普通 隔年交互結実栽培 100a
 ハウス不知火 100a
 【単収】
 ハウスみかん 6t/10a
 露地みかん
 早生 根域制限栽培 3.5t/10a
 普通 隔年交互結実 3t/10a
 ハウス不知火 4.5t/10a
 【収支等】
 粗収益 159,150千円
 経営費 126,925千円
 うち雇用労賃 7,585千円
 農業所得 32,225千円
 主たる従事者の所得 20,000千円
 主たる従事者の労働時間 2,000時間

【経営技術のポイント】
 ・3世代経営と雇用労力の確保によるハウス栽培を中心とした大規模経営
 ・基本技術管理の徹底と土づくりによる収量の確保
 ・需要期に応じた加温と温度管理の徹底
 ・適切な省エネルギー対策による生産コスト削減
 ・根域制限栽培、隔年交互結実栽培の導入による高品質果実の生産
 ・ハウス(温州みかん、中晩柑)と露地みかんを組み合わせた周年供給体制の確立



省エネ装置導入ハウスみかん栽培



温州みかん根域制限栽培



ハウス不知火栽培



農業経営モデル（佐賀さいこうモデル）

営農類型 肉用牛経営(肉用牛一貫)

モデルのポイント 繁殖・肥育の一貫化による経営安定化やキャトルステーション利用による省力化に取り組む大規模な肉用牛一貫経営

佐賀さいこうモデル

【経営形態】

法人経営(4名、常時雇用8名、臨時雇用1,619時間)

【経営規模・作付体系】

肥育牛1,000頭(出荷634頭)
繁殖牛(経産牛)200頭(子牛生産169頭)
飼料作物 延べ 40ha
稲わら収集 1,000ha

【収支等】

粗収益	604,839千円
経営費	571,088千円
うち雇用労賃	28,401千円
農業所得	33,751千円
主たる従事者の所得	20,000千円
主たる従事者の労働時間	2,000時間

【経営技術のポイント】

- ・一貫経営による経営安定化
- ・飼料給与基本プログラムの実践
- ・キャトルステーション利用による省力化
- ・耕畜連携による良質粗飼料の確保
- ・肥育回転率の向上と事故率の低下
- ・自動給餌機などの導入による省力化
- ・フリーバーン等を利用した省力管理
- ・超早期母子分離による分娩間隔短縮
- ・子牛生産率の向上
- ・肥育素牛の自給に取り組むことで、肥育素牛が安定的に供給



繁殖牛を飼養し子牛を生産



キャトルステーションに預託
9か月間



預託後自分の農場で肥育
18.5か月間

39

農業経営モデル（佐賀さいこうモデル）

営農類型 水田作(水稲+麦+大豆+露地野菜)

モデルのポイント 米・麦・大豆と露地野菜を組み合わせた生産性の高い大規模水田農業経営

佐賀さいこうモデル

【経営形態】

法人経営(3名、常時雇用2名、臨時雇用 7,078時間)

【経営規模・作付体系】

経営耕地 20ha
水稲うるち 10ha 大麦 5ha
飼料用米 4ha キャベツ 5ha
大豆 3.3ha たまねぎ 10ha

【単収】

水稲うるち	520kg/10a	大麦	370kg/10a
飼料用米	540kg/10a	キャベツ	5t/10a
大豆	300kg/10a	たまねぎ	5t/10a

【収支等】

粗収益	81,667千円
経営費	66,554千円
うち雇用労賃	9,527千円
農業所得	15,113千円(交付金を含む農業所得 24,700千円)
主たる従事者の所得	16,000千円
主たる従事者の労働時間	2,000時間

【経営技術のポイント】

- ・農地の面的集積による生産の効率化
- ・農業機械の共同利用による米麦、大豆の省力・低コスト生産
- ・作物の作付ローテーションによる生産安定
- ・露地野菜の機械化による省力化と規模拡大
- ・年間労働配分を考えた作目、品種、作型の組合せ
- ・契約栽培による経営の安定
- ・雇用労働力を生かした企業的労務管理の実施



さがびよりの収穫



大型収穫機によるたまねぎの収穫



収穫時期を迎えた大麦

40

農業経営モデル（佐賀さいこうモデル）

営農類型 水田作(水稲+麦+大豆+露地野菜)

モデルのポイント 共乾施設等を核とした土地利用型作物の効率的生産と収益向上のための園芸生産に取り組む広域集落営農法人経営

佐賀さいこうモデル

【経営形態】

広域集落営農法人

【経営規模・作付体系】

経営耕地 150ha

水稲うるち 105ha 水稲もち 27ha

飼料用米 15ha

大麦 79ha 小麦 36ha

大豆 43.2ha

キャベツ 10ha

たまねぎ 25ha 苗床 1.8ha

【単収】

水稲うるち 520kg/10a 水稲もち 540kg/10a

飼料用米 540kg/10a

大麦 350kg/10a 小麦 400kg/10a

大豆 250kg/10a

キャベツ 4t/10a

たまねぎ 5t/10a

【収益性】

粗収益 321,360千円

経営費 265,731千円

うち構成員への労務費 57,476千円

農業所得 55,630千円

(交付金を含む農業所得 224,468千円)

10a当たり所得の目安 150千円

【経営技術のポイント】

- ・スケールメリットを活かした法人運営コストの低減
- ・作物・品種毎の団地化による作業の効率化
- ・機械・施設の効率的利用による生産コストの低減
- ・園芸作物の導入による所得向上
- ・地域内の雇用の場の創出



共乾施設等を核とした作付・品種の団地化